

学校だより

NO 23

令和5年12月19日発行



倉中だより

伊勢市立倉田山中学校
伊勢市神田久志本町 1645-2
校長 金森晃生
電話 22-9415
FAX 22-2198
E-mail kuratayama@jr.ise-mie.ed.jp

学校教育目標 「心やさしく、思いやりの心を持ち、たくましく、知性豊かな倉田山中生徒の育成」

伊勢市子ども人権フォーラム21

6日（水）に伊勢市子ども人権フォーラム21が開催されました。これは前号に記載した12月10日の人権デーにあわせて、伊勢市教育委員会が主催で行っている小学校・中学校に分かれ、子どもたちが書いた人権作文から2～3人の作品を選び、作文発表を行い、その作文に関連することなど会場の子どもたちが、意見や感想を述べるフォーラムです。



今回中学校は2作品の発表がありました。その1つに**本校2年 河俣乃子**さんが選ばれ、作文を発表してくれました。フォーラムには各中学校9人の代表者が集まり、意見交換をします。本校の生徒も全員が自分の意見、感想をしっかり述べてくれました。また、本校では、人権フォーラムに参加した生徒を中心に、各学年で作文を還流し、意見交換も行いました。その河俣さんの作文を以下に掲載します。学年のフォーラムで聴いたと思いますが、再度作文を読んで、一人ひとりが人権について考えてほしいと思います。



性別と個性



私は女子としてこの世界に生まれてきました。そのことで、生きづらさを感じたり、男子との違いに苦しんだりすることはありませんでした。それは今、世界が性別に関係なく一人一人に平等に権利があるという未来を目指しているからだと思います。SDG sにもジェンダー平等を実現しようという項目があります。

私の母が中学生だった頃は、室長は男子がやるのが当たり前だったと以前に聞いたことがあります。「なぜ、女子の室長は駄目だったのだろう。どうしてそんな決まりのようなものができたのだろう。」とたくさん疑問に思うことがあります。私は、室長の性別にこだわる理由なんて何もないと思います。今の私たちの学年は女子の室長も多く、そのこだわりはなくなってきたのだと思うと、何だか嬉しいです。

今の日本の取り組みとして、管理職に就く女性を増やす、政治での女性の活躍を応援する、といったものがあります。女性の代表者を増やすことで、今まで少なかった女性の声を受け入れ、女性も生きやすい社会をつくっていくことが狙いなのだと思います。簡単にはできないことだとは思いますが社会全体が一つになって取り組むことはとても大切です。しっかり私たちのことを考えてくれていると安心できます。しかし、この取り組みは、日本は女性も活躍していると世界にアピールするためだけになってしまっているのではないかと感じます。政界などの女性の割合を増やして、表面上だけでジェンダー平等を主張しているように見えるからです。女性の割合を増やすことだけがジェンダー平等ということではないと思います。女性の割合を増やそうと考えることは、結局女性と

男性を分けているということだと思っからです。女性の活躍の機会を増やすことばかりを意識しすぎて、目標を達成するために無理に女性を起用することは、本来の目的を見失いかねないと私は感じます。どれだけ男性と女性の差をなくそうとしても、それぞれの生まれ持った性能、体のつくりの差はどうしてもなくすことはできません。ジェンダー平等な社会を目指していく中で、どうしてもなくすことのできない男女の壁にぶつかった時、その違いを男女差としてではなく、個人差として捉え、お互いに助け合って生きていくことが大切なのだと思います。

また、LGBTといわれる人たちもいます。その人たちが、本当の自分を告白するのに悩み苦しむなんて非常に悲しいことです。しかし、残念ながら今の世界はまだ、非常に悲しい世界のままだと感じます。もう、性別は二つではないと私は考えます。この考えがもっと広がり、苦しむ人が減ることを望みます。

こうした男女差別、LGBTの人たちへの差別は、多くの人々が今までの常識に囚われているから起きてしまうのだと思います。世界はどんどん新しく生まれ変わっています。その変化を受け入れ、それぞれの個性を尊重することが、みんなが平等に暮らせる世界にするための第一歩だと思います。

この作文には、様々な課題と、一人ひとりが考えなければならぬ提言があると思います。毎日の生活の中で、私はいつも「思いやりの心」を意識しています。この作文の内容と少し異なるかも知れませんが、相手のことを理解し、考えることは「思いやりの心」とも共通しています。今月は「人権デー」にちなんで、人権について考える機会が多くありましたが、人権について考えることは今月だけではなく、いつでも、毎日意識してほしいと思います。そして、そのうち意識しなくても人権を守ることが当たり前のことになってほしいと思います。



文化芸術にふれる 1年生

5日(火)に文化庁が主催する「文化芸術による子供育成推進事業」で、「劇団うりんこ」に来ていただき「小学校は宇宙ステーション」という演劇を鑑賞しました。以前ワークショップに参加した1組の生徒が劇中に登場し、給食当番と放送委員という役柄で、なかなか上手な演技を見せてくれました。演劇を初めて鑑賞した人もいたと思いますが、今

回は演者との距離が近く、息づかいや表情もしっかり見ることができ、生徒のみなさんも感動したことだと思います。以下にみなさんの感想をいくつか紹介します。

- ・劇の内容がよくわかって、楽しく鑑賞できた。あっという間だった。また観てみたい。
- ・劇を観て、夢は持ち続け、何事も逃げずに、あきらめないことが大切だと感じた。
- ・体育館の中なのに舞台がしっかりあって、装飾もすごく、また1人で2役をこなすなんてすごい!
- ・すごく大きな声で聞き取りやすく、演技も迫力があって面白かったです。
- ・1組の人の演技がよかった。私も出演したいと思いました。
- ・劇に出させてもらってすごく楽しかった。こんな機会はないと思うので、いい経験になりました。
- ・劇に出て、すごく緊張した。本番で少し視線がずれて、悔しかった。



□ ■ □ ■ お知らせ □ ■ □ ■

1月8日(月・祝)まで下校時刻は16時45分です。